

稲田絵美, 真柄 仁, 谷口裕重, 堀 一浩, 井上 誠:
摂食・嚥下機能の面白さと難しさを知ろう. 顎口腔
機能の検査・分析—基礎と実践—: 88-91, 日本顎
口腔機能学会, 2015年10月31日発行.

- 11) 食べる楽しみ最後まで支援. 地域包括ケア 17, 朝日新聞, 2015年10月31日.
- 12) 伊藤加代子: 更年期女性のトータルヘルスケアの推進を目指して, 読売新聞, 2015年10月18日.
- 13) 伊藤加代子: 「口の渇き」高齢者に増える, 日経新聞, 2015年9月27日.
- 14) 真柄 仁: ファカルティアドバイザ. 日本歯科医師会/デンツブライ「スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP)」, 東京, 2015年8月21日.
- 15) 井上 誠: 食べることの大切さを知る. 新潟大学歯学部オープンキャンパス, 新潟, 2015年8月10日.
- 16) 井上 誠: 摂食嚥下障害とその治療. 新潟高校課題研究, 新潟, 2015年8月5日.
- 17) にいがた摂食嚥下障害サポート研究会共催ばりあふり〜お食事会, 新潟, 2015年8月1日.
- 18) 井上 誠: 食べる機能を知ること支援すること. FOOMA JAPAN 2015 アカデミックプラザ, 2015年6月11日.
- 19) 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野: 超高齢社会に立ち向かう-介護食開発に必要な知識と問題点-. FOOMA JAPAN 2015 アカデミックプラザ, 2015年6月9-12日.
- 20) にいがた摂食嚥下障害サポート研究会主催 2015年度第1回講演会, 新潟, 2015年5月24日.

硬組織形態学分野

【著書】

- 1) 大島勇人: 「その他の神経」, 「顔の血管とリンパ」.
原島 博 編集: 日本顔学会編「顔の百科事典」第3章生きるための顔—顔の医学—, 顔の生理学と解剖学. 丸善出版, p.171-175, 2015.

【論文】

- 1) Shigetani Y, Yoshiba K, Takei E, Yoshiba N, Yamanaka Y, Ohshima H, Okiji T: Temporospatial localisation of dentine matrix protein 1 following direct pulp capping with calcium hydroxide in rat molars. *Int Endod J* 48(6): 573-581, 2015.
- 2) Watanabe T, Nakagawa E, Saito K, Ohshima H: Differences in healing patterns of the bone-implant interface between immediately and delayed placed titanium implants into the mouse maxilla. *Clin Implant*

Dent Relat Res 18(1): 146-160, 2016.

- 3) Sato T, Kenmotsu S, Nakakura-Ohshima K, Takahashi N, Ohshima H: Pulpal responses to antimicrobials in the infected dental pulp of rat molars. *Arch Histol Cytol* 73(4/5): 165-175, 2010/2011.
- 4) Quispe-Salcedo A, Ida-Yonemochi H, Ohshima H: The effects of enzymatically synthesized glycogen on the pulpal healing process of teeth with intentionally delayed replantation in mice. *J Oral Biosci* 57(2): 124-130, 2015.
- 5) Nakatomi C, Nakatomi M, Saito K, Harada H, Ohshima H: Enamel knot-like structure is eternally maintained in the apical bud of postnatal mouse incisors. *Arch Oral Biol* 60(8): 1122-1130, 2015.
- 6) Saito K, Ida-Yonemochi H, Ushiki T, Ohshima H: Responses of pulp vasculature to cavity preparation in rat molars. *J Oral Biosci* 57(3): 157-164, 2015.
- 7) Katsumi Y, Takagi R, Ohshima H: The occurrence rate and diameter of arteries traveling near the mandible and assessment of relative hemorrhage risk in implant surgery. *Clin Implant Dent Relat Res*. 2015 Jul 1. doi: 10.1111/cid.12365. [Epub ahead of print].
- 8) Kasahara N, Tanaka R, Hayashi T, Kenmotsu S, Ohshima H: The relationship between a maxillary sinus and superior alveolar nerves and vessels demonstrated by cone-beam CT combined with μ -CT and histological analyses. *Anat Rec (Hoboken)*. 2016 Feb 13. doi: 10.1002/ar.23327. [Epub ahead of print].
- 9) Ida-Yonemochi H, Otsu K, Ohshima H, Harada H: The glycogen metabolism via Akt signalling is an important for the secretion of enamel matrix in amelogenesis. *Mech Dev* 2016 Jan 22. pii: S0925-4773(16)30002-8. doi: 10.1016/j.mod.2016.01.002. [Epub ahead of print].
- 10) Shigetani Y, Ohkura N, Yoshiba K, Ohshima H, Hosoya A, Yoshiba N, Okiji T: GaAlAs laser-induced pulp mineralization involves DMP1 and osteopontin expression. *Oral Dis* 2016 Feb 11. doi: 10.1111/odi.12461. [Epub ahead of print].
- 11) Saito K, Nakatomi M, Ida-Yonemochi H, Ohshima H: Osteopontin is essential for type I collagen secretion in reparative dentin. *J Dent Res*. 2016 Apr 28. pii: 0022034516645333. [Epub ahead of print].
- 12) Morita W, Morimoto N, Ohshima H: Metameric variation in human molars demonstrated by morphometric mapping. *J Anat*. 2016 Apr 21. doi: 10.1111/joa.12482. [Epub ahead of print].

【商業誌等】

- 1) 大島勇人：第2章「電子メールを使う」．新潟大学歯学部編「大学で学ぶための学習ガイドブック」，ウィザップ，新潟，p.15-33，2015.
- 2) 大島勇人：第4章「インターネット・セキュリティを学ぶ」．新潟大学歯学部編「大学で学ぶための学習ガイドブック」，ウィザップ，新潟，p.55-68，2015.
- 3) 大島勇人：第10章「発表する」．新潟大学歯学部編「大学で学ぶための学習ガイドブック」，ウィザップ，新潟，p.153-161，2015.
- 4) 渡辺泰典：【学位研究紹介】マウス上顎骨における即時埋入と遅延埋入チタンインプラント間の骨・インプラント界面の治癒パターンの相違．新潟歯学会誌 45(2)：93-94，2015.
- 5) 大島勇人：歯の発生を制御する分子機構．腎と骨代謝 29(1)：7-13，2016.
- 9) 松山順子，佐藤拓一，竹中彰治，鷲尾純平，大島勇人：齶蝕関連細菌群をターゲットとした歯垢バイオフィルムの多角的解析と齶蝕予防への展開．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，25463237，2015.
- 10) 瀬尾憲司，依田浩子ほか：末梢神経損傷による骨破壊現象の物質基盤の解明．日本学術振興会科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究，25670854，2015.
- 11) 武内恒成，依田浩子ほか：脊髄損傷修復に向けた再生阻害機構制御ーコンドロイチン硫酸を制御する新素材開発ー．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，26462232，2015.
- 12) 武藤徳子，大島勇人ほか：感染歯髄へのMTA直接覆髄後のデンティンブリッジ形成機構の解明とOPNの役割．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，15K11136，2015.

【研究費獲得】

- 1) 大島勇人，辻極秀次，本田雅規：歯髄幹細胞／前駆細胞のサブポピュレーションの解明：分化能・由来・微小環境との関連．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)，25293371，2015.
- 2) 依田浩子，武内恒成，柴田俊一：プロテオグリカンを介した歯胚細胞外環境の構築機序の解明と新規歯胚組織再生法の確立．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，26462777，2015.
- 3) 斎藤浩太郎：修復象牙質形成過程におけるオステオポンチンの機能の解明．日本学術振興会科学研究費補助金 研究活動スタート支援，26893081，2015.
- 4) 大島邦子，大島勇人ほか：意図的歯根切除と抗菌性薬剤が歯の再植後の歯髄・歯根膜治癒過程に及ぼす影響について．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，26463111，2015.
- 5) 興地隆史，大島勇人ほか：ラット切歯歯髄幹細胞による臼歯歯髄の再生：自己幹細胞移植による歯髄再生への展開．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)，26293405，2015.
- 6) 竹中彰治，大島勇人ほか：バイオフィルム制御の概念転換の必要性の提示とマトリックスを標的とした制御戦略開発．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，26462876，2015.
- 7) 齊藤一誠，大島勇人ほか：乳歯歯髄由来ヒトiPS細胞からの歯形成細胞への分化誘導制御．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)，25293418，2015.
- 8) 石川裕子，大島勇人：胎生期ラベリング法を用いた歯髄幹細胞の局在と維持機構の解明．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，25462955，2015.
- 13) 柴田俊一，依田浩子ほか：歯胚形成におけるヒアルロン酸の発現と機能に関する研究．日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，15K11005，2015.
- 14) 田中礼，依田浩子ほか：下顎骨の骨粗鬆症診断：組織から画像へのインタープリテーション，日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)，15K11070，2015.

【招待講演・シンポジウム】

- 1) 斎藤浩太郎：歯の他家移植はマウス歯髄幹細胞/前駆細胞の維持を阻害する．第57回歯科基礎医学会学術大会・歯科基礎医学会学会奨励賞受賞講演，新潟，2015年9月11-13日．J Oral Biosci Suppl 2015，p.65，2015.
- 2) 斎藤浩太郎，中富満城，依田浩子，大島勇人：象牙芽細胞分化過程におけるDsppの機能的意義．第57回歯科基礎医学会学術大会サテライトシンポジウム，新潟，2015年9月11-13日．J Oral Biosci Suppl 2015，p.128，2015.
- 3) 大島勇人：学術論文作成に必要な画像処理とプレゼン技法について．第57回歯科基礎医学会学術大会ランチョンセミナー：エルゼビア社主催若手研究者のためのAuthor Workshop，新潟，2015年9月11-13日．J Oral Biosci Suppl 2015，p.67，2015.
- 4) 大島勇人：歯髄幹細胞の特性解明と再生医学への展開．口腔医科学会 平成27年度 第19回学術講演会，東京，2015年10月18日．
- 5) 斎藤浩太郎：修復象牙質形成過程におけるオステオポンチンの役割について．第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 研究集会・懇話会，福島，2016年3月27日，第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・抄録集，p.25，2016.

- 6) 齋藤浩太郎：新潟大学歯学部における特徴ある解剖学実習：口底部解剖学構造の三次元的理解を目指した実習手順. 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会ワークショップ, 福島, 2016年3月28-30日, 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・抄録集, p.118, 2016.

【学会発表】

- 1) Ida-Yonemochi H, Harada H, Ohshima H: Role of glucose metabolism during ameloblast differentiation. 2015 4th Tripartite Conference on Tooth and Bone Development & Regeneration, Narita, 2015. 6. 12-15.
- 2) Saito K, Ida-Yonemochi H, Ohshima H: Osteopontin promotes type I collagen synthesis in reparative dentinogenesis. 2015 4th Tripartite Conference on Tooth and Bone Development & Regeneration, Narita, 2015. 6. 12-15.
- 3) Morita W, Morimoto N, Ida-Yonemochi H, Ohshima H: Quantitative analysis in mouse lower molars by means of morphometric mapping. 2015 4th Tripartite Conference on Tooth and Bone Development & Regeneration, Narita, 2015. 6. 12-15.
- 4) Otsu K, Ida-Yonemochi H, Kumakami-Sakano M, Fujiwara N, Harada H: Regulation of dental epithelial cell differentiation by Rho signaling. 2015 4th Tripartite Conference on Tooth and Bone Development & Regeneration, Narita, 2015. 6. 12-15.
- 5) Ishikawa Y, Nakatomi M, Ohshima H: Mechanisms maintaining quiescent stem cells in the apical bud of incisors and the dental pulp of growing incisors and developing molars of mice. Hong Kong, Japan and Korea Knowledge Exchange Sessions 2016, Hong Kong, 2016. 2. 12-13.
- 6) Murakami T, Saitoh I, Inada E, Soda M, Suzuki A, Sawami T, Kagoshima A, Iwase Y, Terao Y, Ohshima H, Hayasaki H, Sato M: Genetic engineering-based isolation of deciduous dental pulp stem-like cells. 45th Annual Meeting & Exhibition of the AADR, Los Angeles, CA, USA, 2016. 3. 16-19.
- 7) Soda M, Saitoh I, Inada E, Murakami T, Suzuki A, Sawami T, Kagoshima A, Iwase Y, Terao Y, Ohshima H, Hayasaki H, Sato M: ALP as a reliable marker for predicting early reprogramming. 45th Annual Meeting & Exhibition of the AADR, Los Angeles, CA, USA, 2016. 3. 16-19.
- 8) 大倉麻里子, 大倉直人, 吉羽永子, 吉羽邦彦, 依田浩子, 大島勇人, 齋藤 功, 興地隆史: 実験的歯の移動におけるラット臼歯歯髄内 prostaglandin I₂ 合成酵素と受容体の発現解析, 平成 27 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2015 年 7 月 11 日, 新潟歯学会誌 45(2): 97-98, 2015.
- 9) 依田浩子, 大島勇人: エナメル芽細胞分化過程におけるナトリウム依存性グルコース輸送体の局在と機能. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015 年 9 月 11-13 日. J Oral Biosci Suppl 2015, p. 179, 2015.
- 10) 石川裕子, 中富満城, 大島勇人: マウス切歯 apical bud および切歯・臼歯歯髄における静的幹細胞維持機構について. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015 年 9 月 11-13 日. J Oral Biosci Suppl 2015, p. 190, 2015.
- 11) 渡辺泰典, 齋藤浩太郎, 大島勇人: ハイドロキシアパタイトはマウス顎骨へのチタンインプラント即時埋入後の接触性骨形成に影響を及ぼす. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015 年 9 月 11-13 日. J Oral Biosci Suppl 2015, p. 218, 2015.
- 12) 大倉直人, 枝並直樹, 吉羽永子, 吉羽邦彦, 依田浩子, 大島勇人, 興地隆史: ラット臼歯歯髄断髄後の Prostaglandin Transporter に対する免疫組織学的局在解析. 第 57 回歯科基礎医学会学術大会, 新潟, 2015 年 9 月 11-13 日. J Oral Biosci Suppl 2015, p. 367, 2015.
- 13) 村上智哉, 齊藤一誠, 左右田美樹, 澤味 規, 鹿児島暁子, 寺尾 豊, 大島勇人, 早崎治明: Lymphoid enhancer factor-1 promoter を用いた乳歯歯髄幹細胞様細胞の単離, 平成 27 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2015 年 11 月 7 日, 新潟歯学会誌 45(2): 105, 2015.
- 14) 依田-米持浩子, 大津圭史, 大島勇人, 原田英光: Akt シグナルがグルコース代謝を促進しエナメル芽細胞分化を誘導する. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015 年 12 月 1-4 日.
- 15) 五藤紀子, 藤本勝巳, 藤井紗貴子, 依田-米持浩子, 大島勇人, 河本 健, 能城光秀, 宿南知佐, 香西克之, 加藤幸夫: 歯髄幹細胞においてホメオボックス型転写因子 MSX1 はコレステロール合成関連遺伝子の発現を制御する. 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015 年 12 月 1-4 日.
- 16) 依田浩子, 森田 航, 柴田俊一, 和田芳野, 五十嵐道弘, 武内恒成, 大島勇人: コンドロイチン硫酸合成酵素遺伝子欠損マウスに生じる顎顔面発育異常. 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会ワークショップ, 福島, 2016 年 3 月 28-30 日, 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・

抄録集, p.137, 2016.

- 17) 斎藤浩太郎, 大島勇人: マウス臼歯窩洞形成後の歯髄治癒過程における DMP1 の役割. 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会ワークショップ, 福島, 2016 年 3 月 28-30 日, 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・抄録集, p.156, 2016.

【研究会発表】

- 1) 大島勇人: インプラント臨床に役立つマクロ解剖学: 口腔底と上顎洞を走行する動脈・神経について. 日本橋インプラントセンター研修会, 東京, 2015 年 8 月 20 日.
- 2) 依田浩子, 大島勇人, 原田英光: 酵素合成グリコーゲンは Akt-GSK 3b シグナル経路を介して骨芽細胞分化を促進する. 第 39 回峠の会(形態学セミナー), 盛岡, 2015 年 7 月 31 日.
- 3) 斎藤浩太郎: H2B-GFP マウスを用いた歯髄幹細胞/前駆細胞の局在の検索. 第 39 回峠の会(形態学セミナー), 盛岡, 2015 年 7 月 31 日.
- 4) 大島勇人: インプラント臨床に役立つ組織学～動物実験から見えてきたもの～. 日本橋インプラントセンター研修会, 東京, 2016 年 2 月 4 日.

【表彰】

- 1) 斎藤浩太郎: 第 27 回(平成 27 年度)学会奨励賞(歯科基礎医学会賞)

【その他】

- 1) Ohshima H : Editor-in-Chief, Journal of Oral Biosciences
- 2) Ohshima H: Advisory Editor, Dental Materials Journal
- 3) Ohshima H: Editorial Board, Japanese Dental Science Review
- 4) Ohshima H: Section Editor, Regenerative Therapy
- 5) 中原 貴, 大島勇人: (企画) 第 1 回定期特別講演会(併催 平成 27 年度定時社員総会)分野別分科会(組織発生学)「口腔組織の発生生物学から再生への展開」: 1. 基調講演 高野吉郎『歯はこうしてつくられるーエナメル質研究者の視点からー』, 2. 大津圭史『iPS 細胞を用いた歯、歯周組織再生の試みと新たな展開』, 3. 中原 貴『口腔組織再生に導く細胞ソースの獲得～初代培養からの選択的細胞分離の実際～』, 東京, 2015 年 4 月 25 日.
- 6) Harada H, Ohshima H: (Organizer) 2015 4th Tripartite Conference on Tooth and Bone Development & Regeneration, Narita, 2015. 6. 12-15.
- 7) 大島勇人: 平成 27 年度 SCRP 日本代表選抜大会審査

員, 東京, 2014 年 8 月 21 日.

- 8) 山越康雄, 大島勇人: (企画) 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会メインシンポジウム「Dentin Sialophosphoprotein (DSPP) を形態と機能から考える」(歯の発生の会共催, 歯胚再生コンソーシアム後援): 1. 山越康雄『オーバービュー: DSPP を形態と機能から考える』, 2. 山本竜司『歯髄および象牙質中の DSPP 由来タンパク質～遺伝子発現と機能について～』, 3. 斎藤浩太郎, 中富満城, 依田浩子, 大島勇人『象牙芽細胞分化過程における Dspp の機能的意義』, 4. 尾関伸明, 茂木眞希雄, 中田和彦『幹細胞を用いた象牙芽細胞分化誘導法とそのメカニズム』, 5. 鈴木茂樹, 小武家誠司, 春山直人, 柴秀樹『改変型組み換え DPP タンパク質を利用した硬組織再生における有用性』, 新潟, 2015 年 9 月 11-13 日. J Oral Biosci Suppl 2015, p.126-130, 2015.
- 9) 大島勇人: エンドドンティクス. 神奈川歯科大学特別講義, 横須賀, 2015 年 9 月 15 日.
- 10) 大島勇人, 高見寿子, 佐藤雅彦: 表情筋・咀嚼筋モデル. 品番: J-01. 2016 年 1 月(プレスリリース 1 月 14 日, 於: 新潟大学).
- 11) 依田浩子: 第 14 回 Niigata Bone Research Conference 主催, 新潟市, 2016 年 2 月 19 日
- 12) 大島勇人: 修復象牙質形成・オッセオインテグレーション獲得過程におけるオステオポンチンの役割, 東京, 2016 年 3 月 3 日.
- 13) 大島勇人: 第 20 回産学連携フォーラム(歯科再生医療産学連携会議主催), 大阪, 2016 年 3 月 17 日.
- 14) 上田 実, 大島勇人: (企画) 第 15 回日本再生医療学会総会シンポジウム「歯科再生研究はどこまで進んだか?ー難治性疾患への歯髄細胞の応用」: 1. 田口智章『肝不全治療への歯髄細胞移植応用』, 2. 秦 正樹『糖尿病性神経障害に対する歯髄細胞移植の応用』, 3. 山本朗仁『難治性疾患に対する歯髄細胞培養上清液の応用』, 4. 福光秀文『歯髄細胞移植による脊髄損傷治療の効果』, 第 15 回日本再生医療学会総会, 大阪, 2016 年 3 月 17-19 日.
- 15) 原田英光, 大島勇人: (世話人) 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 研究集会・懇話会「次世代を担う若手研究者の最新の歯の発生・再生研究」: 鳥海 拓, 細矢明宏『ポリコーム群タンパク質 Bmi1 による象牙芽細胞分化調節』, 斎藤浩太郎『修復象牙質形成過程におけるオステオポンチンの役割について』, 森田 航『歯の個体発生と系統発生～人類学の視点から』, 福島, 2016 年 3 月 27 日, 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・抄録集, p.25, 2016.

- 16) 大島 勇人, 本田 雅規 : (企画) 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会シンポジウム「口腔組織幹細胞研究の現状と展望 (今とこれから)」: 成瀬 桂子『歯髄幹細胞を用いた糖尿病性神経障害に対する細胞移植療法—歯髄幹細胞の有用性と多様な作用機序』, 太田 正人『味蕾幹細胞のパラダイム転換』, 前田 英史『歯根膜幹細胞の特性の解析』, 泉 健次『口腔粘膜上皮幹細胞の同定・単離に向けて』, 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 福島, 2016 年 3 月 28-30 日, 第 121 回日本解剖学会総会・全国学術集会 講演プログラム・抄録集, p. 109-110, 2016.

口腔生化学

【原著論文】

- 1) Tanaka Y, Hasegawa T, Yamada T, Yamamoto T, Sasaki M, Hongo H, Tsuboi K, Haraguchi M, de Freitas PH, Li M, Oda K, Totsuka Y, Tei K, Amizuka N. Histological assessment for femora of ovariectomized obesity (db/db) mice carrying mutated leptin receptor. *Histol Histopathol.* in press
- 2) Liu Z, Yamamoto T, Hasegawa T, Hongo H, Tsuboi K, Tsuchiya E, Haraguchi M, Abe M, Freitas PH, Kudo A, Oda K, Li M, Amizuka N. Immunolocalization of osteocyte-derived molecules during bone fracture healing of mouse ribs. *Biomed Res.* 37, 141-51, 2016.
- 3) Komaru K, Satou Y, Al-Shawafi HA, Numa-Kinjoh N, Sohda M, Oda K. Glycosylation-deficient mutations in tissue-nonspecific alkaline phosphatase impair its structure and function and are linked to infantile hypophosphatasia. *FEBS J.* 283, 1168-79, 2016.
- 4) Sohda M, Misumi Y, Oda K. TNF α triggers release of extracellular vesicles containing TNFR1 and TRADD, which can modulate TNF α responses of the parental cells. *Arch Biochem Biophys.* 587, 31-7, 2015.
- 5) Feng W, Liu B, Liu D, Hasegawa T, Wang W, Han X, Cui J, Yimin, Oda K, Amizuka N, Li M. Long-Term Administration of High-Fat Diet Corrects Abnormal Bone Remodeling in the Tibiae of Interleukin-6-Deficient Mice. *J Histochem Cytochem.* 64, 42-53, 2016.
- 6) Yamamoto T, Yamada T, Yamamoto T, Hasegawa T, Hongo H, Oda K, Amizuka N. Hertwig's Epithelial Root Sheath Fate during Initial Cellular Cementogenesis in Rat Molars. *Acta Histochem Cytochem.* 48, 95-101, 2015.
- 7) Feng W, Lv S, Cui J, Han X, Du J, Sun J, Wang K, Wang Z, Lu X, Guo J, Oda K, Amizuka N, Xu X, Li M. Histochemical examination of adipose derived stem cells combined with β -TCP for bone defects restoration under systemic administration of $1\alpha,25(\text{OH})_2\text{D}_3$. *Mater Sci Eng C Mater Biol Appl.* 54, 133-41, 2015.
- 8) Numa-Kinjoh N, Komaru K, Ishida Y, Sohda M, Oda K. Molecular phenotype of tissue-nonspecific alkaline phosphatase with a proline (108) to leucine substitution associated with dominant odontohypophosphatasia. *Mol Genet Metab.* 115, 180-5, 2015.
- 9) Liu H, Cui J, Sun J, Du J, Feng W, Sun B, Li J, Han X, Liu B, Yimin, Oda K, Amizuka N, Li M. Histochemical evidence of zoledronate inhibiting c-src expression and interfering with CD44/OPN-mediated osteoclast adhesion in the tibiae of mice. *J Mol Histol.* 46, 313-23, 2015.
- 10) Liu H, Cui J, Feng W, Lv S, Du J, Sun J, Han X, Wang Z, Lu X, Yimin, Oda K, Amizuka N, Li M. Local administration of calcitriol positively influences bone remodeling and maturation during restoration of mandibular bone defects in rats. *Mater Sci Eng C Mater Biol Appl.* 49, 14-24, 2015.
- 11) Ishida R, Yamamoto A, Nakayama K, Sohda M, Misumi Y, Yasunaga T, Nakamura N. GM130 is a parallel tetramer with a flexible rod-like structure and N-terminally open (Y-shaped) and closed (I-shaped) conformations. *FEBS J.* 282, 2232-44, 2015.
- 12) Kawasaki M, Suzuki A, Sakai Y, Sohda M, Igarashi A, Watanabe T. Analysis of Oral Moisturizing Effects of Trehalose Tablets. *Niigata Dent. J.* 45, 13-19, 2015.
- 13) Amaya Y, Nakai T, Miura S. Evolutionary well-conserved region in the signal peptide of parathyroid hormone-related protein is critical for its dual localization through the regulation of ER translocation. *J Biochem.* in press